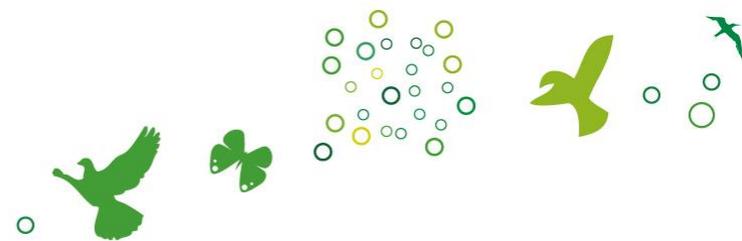


2013年10月25日(金)
びわ湖環境ビジネスメッセ
「環境性能で勝つ！」



環境性能の見える化の将来

一定量的な環境情報開示 タイプⅢ環境ラベル



Japan Environmental Management
Association for Industry

一般社団法人産業環境管理協会

Copyright(C)2013 JEMAI All Rights Reserved



JEMAI LCA事業推進センターの業務概要

1962年に設立以来、公害問題、化学物質管理、地球環境問題に至る産業由来の環境問題に対して、各種評価、技術開発、調査等を行って現在に至っております。最近では、我が国における環境マネジメントシステム、ISO14000関連規格の導入、普及に関して中心的な役割を果たしてきております。

【概要】
 設立：1962年
 職員数：125名
 事業所：東京（本部）、札幌、仙台、名古屋
 大阪、広島、高松、福岡

LCA（ライフサイクルアセスメント）関係の活動

「見える化」プログラムの運営

・カーボンフットプリント／エコリーフプログラムを通じ、製品の環境負荷の算定・表示をする制度を運営しています。



「見える化」ツールの開発

・LCAソフトMiLCAと、それに搭載するLCAデータベースを開発。現在、日本で最も利用されているツールとなっています。



人材養成・企業支援

・LCA研修会の開催、企業・業界団体へのコンサルティング、LCA報告の第三者レビューなどを行っています。
 （例：トヨタ自動車様、日産自動車様）

試験・登録

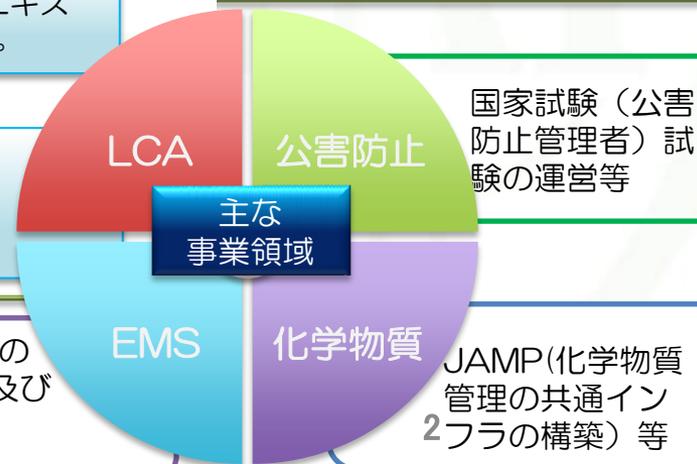
・日本LCA学会と協力し、LCAエキスパート検定試験を運営しています。

国際協力・標準化

・専門家派遣、研修生受け入れ
 ・国際規格国内審議委員会
 ・専門書籍の出版

フォーラム運営

・産官学のプラットフォームとして、LCA／カーボンフットプリントを研究・調査・普及するフォーラムを運営しています。



IPCC*:5次報告書／止まらぬ温暖化

*Intergovernmental Panel on Climate Change



温暖化の科学的根拠をテーマとする
第1作業部会の報告書
(195カ国が参加)9月27日公表

○世界各地で頻発する干ばつや猛暑、洪水、豪雨などが温暖化に起因

		第4次(2007年)	第5次
過去の気温上昇		0.74度(1906～2005年)	0.85度(1880～2010年)
今世紀末	気温上昇予測	1.1～6.4度	0.3～ 4.8度
	海面水位の上昇予測	18～59センチ	26～ 82センチ
温暖化は人間活動の結果かどうか		可能性が非常に高い (90%以上)	可能性が極めて高い (95%以上)
報告書本体の頁数		約1000頁	約2000頁

○作業部会のトーマス・ストッカー共同議長

「温暖化を抑えるためには温室効果ガスの実質的な削減が必要」

地球環境問題の本質

世界人口の急増

途上国等の高い経済成長

エネルギー・天然資源等の需要の増加

食糧・水等の需要の増加

事象

経済活動のグローバル化

農地、工業用地、商業地等の開発、都市化の進展

エネルギー・天然資源等の逼迫

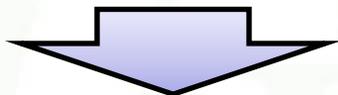
食糧、水資源の逼迫

環境負荷の増大

- ◆ 地球的規模の環境問題 (生物多様性、地球温暖化)
- ◆ アジア地域規模の環境問題 (廃棄物・リサイクル、酸性雨・黄砂、公害等)
- ◆ 日本の環境問題

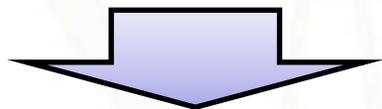
地球環境に対して産業界の取るべきアクション

- 1987 国連「環境と開発特別委員会(委員長:ブルントラント ノルウェー首相)
Report: “Our Common Future (邦題:われら共有の未来)”にて「持続可能な発展」を提案
 1. 生態系の臨界容量の枠内で生きるということ
 2. 社会的、経済的、エコロジカルなゴールをバランスさせる「生態系の維持能力の中で生活しながら、人類の生活の質を改善すること」



産業界の取るべきアクション

- 環境マネジメントシステムに則った継続的環境改善
- エコデザインによる製品開発 → エコプロダクツ
 - ・環境効率、資源生産性の向上



エンドオブパイプの対応から環境保全・汚染防止(源流)対応へ

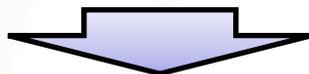
エコデザインによる製品開発

■環境配慮設計 (DfE : Design for Environment) の目的

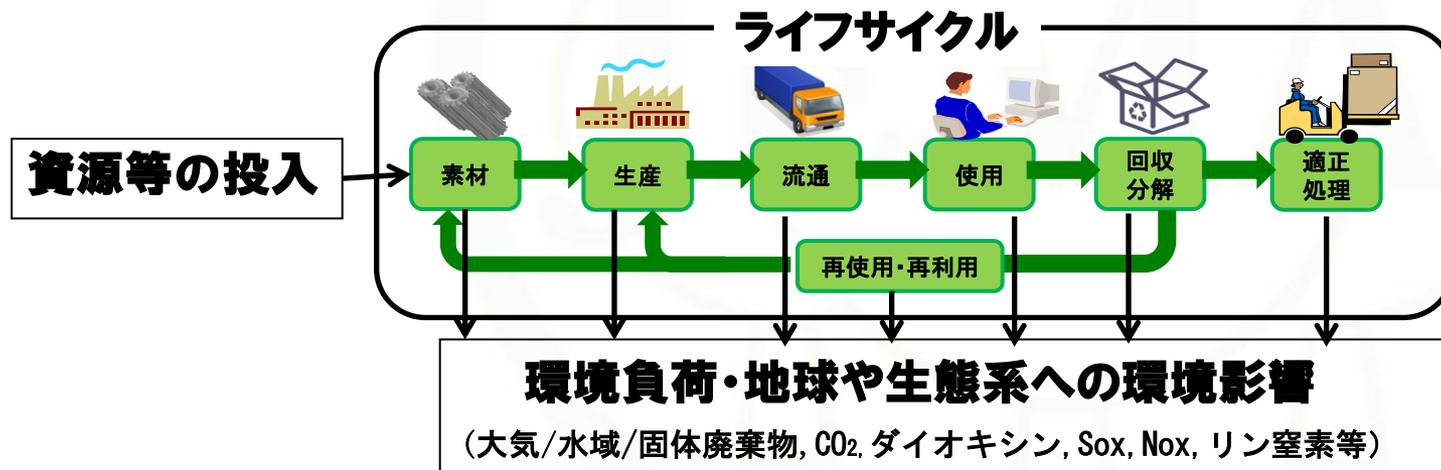
- ・ **持続可能な発展**を念頭にし、企業が環境にもたらしている**影響を低減**し、最終的には社会から求められる企業の責任をはたすことに資する。

■定義

- ・ 製品のライフサイクル全体にわたっての環境側面を組み込んだ製品設計と製品開発の考え方や戦略をいう。



LCA(ライフサイクルアセスメント)の実施 → 情報開示に活用



環境影響を定量的に評価 → 環境ラベル

環境ラベル



環境ラベル

製品の評価(一選択)指標

性能 + 価格 + 機能 + デザイン + **環境情報** +

環境ラベル

タイプ I (ISO14024)	タイプ II (ISO14021)	タイプ III (ISO14025)
基準合格の証明	企業の環境自己主張	製品環境情報の定量的開示
利用者側(一般消費者、企業の購買担当者)		
<p>どの製品が↑ 良いか?</p> <p>第3者認証機関 (基準合否の判定)</p>	<p>製品のどこが↑ 良いか?</p>	<p>環境負荷は↑ どの程度か?</p> <p>第3者検証機関 (データの検証)</p>
提供側(企業)		



エコマーク
(日本)



ブルーエンジェル
(ドイツ)



キャノン
(日本)



日立
(日本)



EPDプログラム
(スウェーデン)



エコリーフ
(日本)

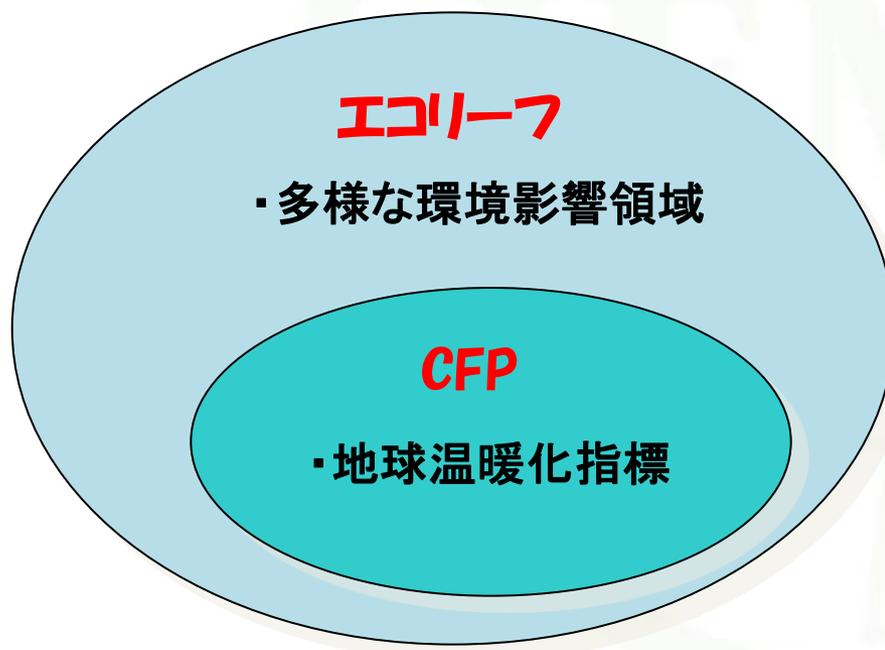


カーボン
フットプリント
(日本)

JEMAI環境ラベル【エコリーフとCFP】の関係(イメージ図)

1. 信頼性・透明性・公平性を確保した定量的環境情報の「見える化」(算定)
2. 事業者と消費者の間でCO₂排出量削減行動に関する「気づき」を共有
3. 消費者がより低炭素な消費生活への自ら変革し環境負荷を低減

環境情報公開領域





産業環境管理協会が提供する環境ラベル



		カーボンフットプリント	エコリーフ	
目的		事業者とお客様の間でエネルギー・化学物質使用量や廃棄物発生量等の削減行動に関する「気づき」を共有する。		
対象とする環境領域		温室効果ガス(CO2) 排出量のみ	多様な環境領域(エネルギー消費・資源消費・環境負荷(CO2・SO2等))	
特徴	PCR*	○	○	
	原単位	複数 (基本と利用可能データ)	1種類 (共通原単位のみ)	
	検証	個別	書面検証	対面検証
		システム	外部機関に申請	事務局に申請
登録費用	企業単位(売上高リンク)	製品単位・製品分類単位		
国際規格		ISO/TS14067	ISO14025	

* Product category rule:製品カテゴリールール

カーボンフットプリントの、製品の分類ごとに定められた計算ルール

工業会や企業等により策定され、様々な人の意見を受け、専門家のチェックを受けて、認定・公開されています。

●計算ルール

対象製品・サービスを定める。

製品・サービスの種類(例:画像入出力機器、ユニホーム)

各ライフサイクルステージを設定する。

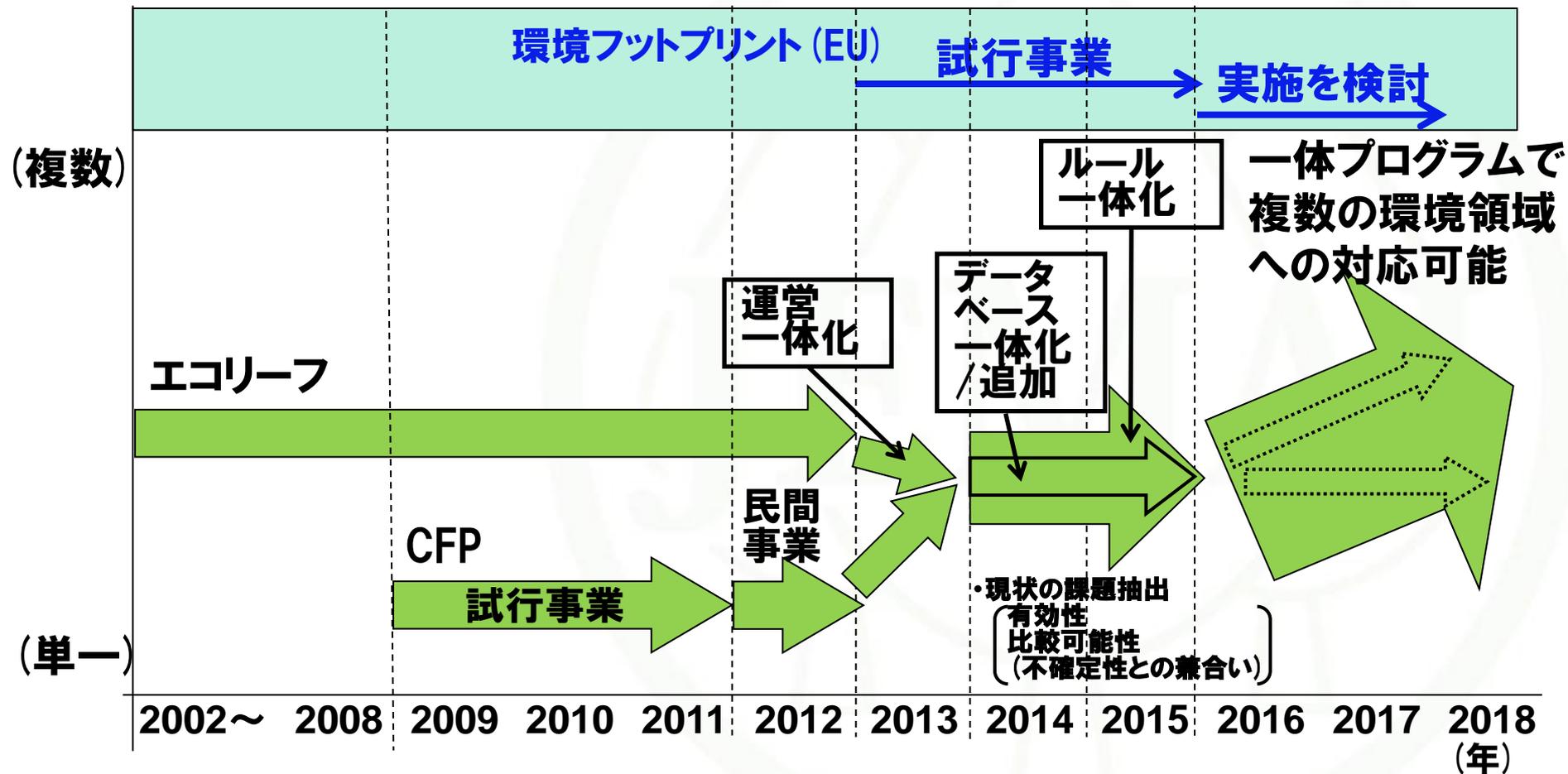
ライフサイクルを考える範囲や計算・データ収集方法を設定、データ収集困難な場合の考え方をシナリオとして設定する。

表示内容を決める。

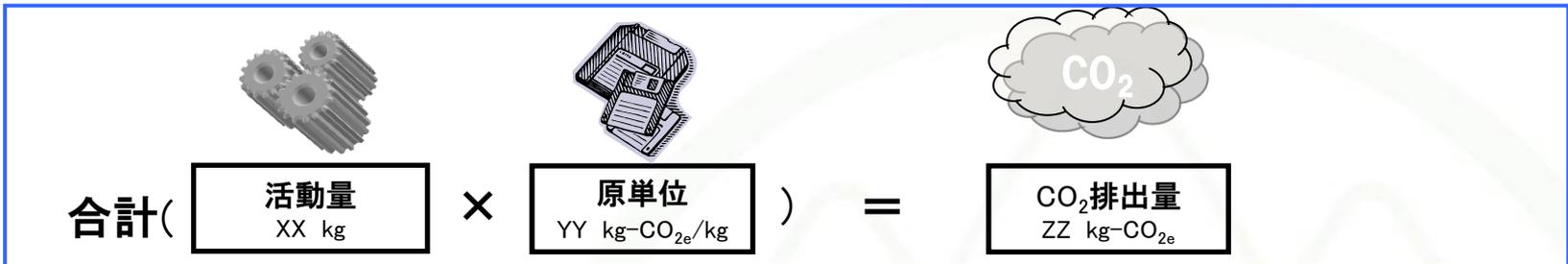
環境に関して考慮している事項や計算した結果の注意事項 など

JEMAI環境ラベル拡大のイメージ

評価する環境領域



環境負荷計算の基本(CO₂排出量の例)



段階	活動量の例	×	原単位の例
原材料調達	素材使用量 (kg)	×	素材1kg当たりの生産時のCO ₂ 排出原単位
生産	組立て個数 (個)	×	製品1個当たりの組立て時のCO ₂ 排出原単位
	生産時電力消費量 (kWh)	×	電力1kWh当たりのCO ₂ 排出原単位
流通	輸送質量・距離 (t・km)	×	商品の輸送量1tkm当たりのCO ₂ 排出原単位
使用・維持管理	使用時電力消費量 (kWh)	×	電力1kWh当たりのCO ₂ 排出原単位
廃棄・リサイクル	埋立質量 (kg)	×	1kg埋立時のCO ₂ 排出原単位
	リサイクル質量 (kg)	×	1kgリサイクル準備時のCO ₂ 排出原単位

ライフサイクルでの排出量合計

CFPとは





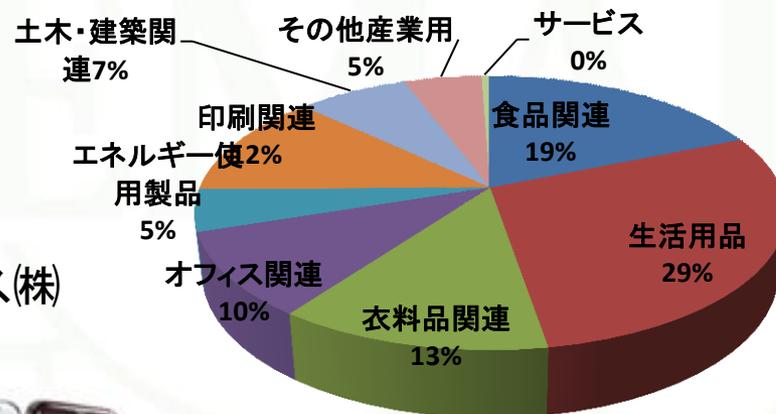
CFPプログラムの登録公開状況

2013年10月11日現在

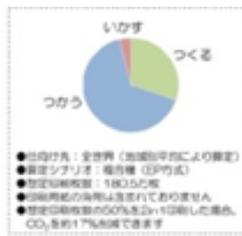
◇CFP-PCR認定数	84件	
◇CFP宣言認定製品累計数	737件	(現在公開数627件)
◇CFP登録公開企業累計数	134社	

<主な参加企業>

- 食品分野 日本ハム(株)、井村屋(株)、イオン(株)、(株)でん六等
- 生活用品 日本生活協同組合連合会
- 衣料品分野 (株)チクマ、(株)アシックス
- オフィス関連 コクヨ(株)、イトーキ
- 印刷関係 大日本印刷(株)、凸版印刷(株)
- 電機・電子分野 (株)日立製作所、日本ユニシス(株)キヤノン(株)、サムスン電子



CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント
製品1台あたり
<http://www.cfp-japan.jp>
CR-DG01-12004



CFP 宣言認定を取得した
「ImageRUNNER ADVANCE C5255」



製品1台あたり
CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント
認定使用期間：2年間
<http://www.cfp-japan.jp>
CR-DH01-12001



<GALAXY Note II>



カーボンフットプリントのWeb表示例

1. 製品情報			
1.1	登録番号	CR-DH01-13001	1.7 製品写真 
1.2	製品名称 (日本語)	GALAXY S4 SC-04E	
	製品名称 (英語)	GALAXY S4 SC-04E	
1.3	製品型式	SC-04E	
1.4	製品の主要仕様・諸元	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズ：高さ 約136.6mm×幅 約 69.8mm×厚さ 約 7.9mm ・本体重量：134g ・ディスプレイサイズ：5インチ ・バッテリー容量：2600mAh ・付属品：USBケーブル、マニュアル 	
1.5	CFP算定単位	製品一箇	
1.6	公開日	2013年5月28日	

2. 事業者情報	
2.1	事業者名 (日本語) サムスン電子株式会社
	事業者名 (英語) Samsung Electronics Co., Ltd.
2.2	電話番号 03-6234-2222

3. CFP算定結果およびCFP宣言の内容		
3.1	CFP算定結果 (カーボンフットプリント)	22 kg-CO ₂ e <small>(諸君ご通知により左記の値は仮の合計値と若干異なる場合があります)</small>
内訳 (ライフサイクル段階別、プロセス別、フロー別、等)		
3.2	原材料調達段階	17 kg-CO ₂ e
	生産段階	0.52 kg-CO ₂ e
	流通段階	0.23 kg-CO ₂ e
	使用・維持管理段階	3.8 kg-CO ₂ e
	廃棄・リサイクル段階	0.018 kg-CO ₂ e

3.3 数値表示、追加情報の内容		
3.3	数値表示	<記載内容> 22kg 製品1個あたり
	追加情報の記載内容	・想定使用期間：2年間

3.4	備考	想定使用条件：																														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>使用機能</th> <th>想定使用回数 [日]</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アイドル</td> <td>18.97</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音声通話</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音声再生</td> <td>1</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>動画再生</td> <td>0.42</td> <td>※2</td> </tr> <tr> <td>テキストメッセージ (SMS)</td> <td>0.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電子メール (WiFi)</td> <td>0.315</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>電子メール (3G)</td> <td>0.315</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>Web閲覧 (WiFi)</td> <td>0.19</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>Web閲覧 (3G)</td> <td>0.19</td> <td>※1</td> </tr> </tbody> </table>	使用機能	想定使用回数 [日]	備考	アイドル	18.97		音声通話	2		音声再生	1	※1	動画再生	0.42	※2	テキストメッセージ (SMS)	0.6		電子メール (WiFi)	0.315	※1	電子メール (3G)	0.315	※1	Web閲覧 (WiFi)	0.19	※1	Web閲覧 (3G)	0.19	※1
		使用機能	想定使用回数 [日]	備考																												
		アイドル	18.97																													
		音声通話	2																													
		音声再生	1	※1																												
		動画再生	0.42	※2																												
		テキストメッセージ (SMS)	0.6																													
		電子メール (WiFi)	0.315	※1																												
		電子メール (3G)	0.315	※1																												
Web閲覧 (WiFi)	0.19	※1																														
Web閲覧 (3G)	0.19	※1																														
備考：PCRで規定された操作条件および手順について、測定回数を[※1]については10回から3回へ、[※2]については10回から5回へ変更して計測を行いました。(外部機関にて測定を実施)																																
計測対象の充電器としては、SC04アダプタ (オプション品) が使用されました。根拠：PCR 10-4【本体1日あたり電力消費量：シナリオその1】																																

カーボンフットプリント登録情報

4. CFP算定結果の解釈		
4.1	CFP算定結果の解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料調達段階における温室効果ガス排出量は約7%と最も多くなりました。これは、ディスプレイパネルや電子回路基板などスマートフォンを構成する多くの電子部品の製造の係る負荷について積算されているためです。 ・使用段階については規定のシナリオを用いた場合、全体の約17%を占めています。 ・電子部品などの原単位について一般的な値を利用しており、使用は特定の使用条件を想定した値となっていますので、この結果は概算値としてご理解下さい。

5. 算定条件				
5.1	認定CFP-PCR名称	携帯情報通信機器	5.2 認定CFP-PCR番号	PA-DH-01
5.3	利用した二次データの考え方	基本データベースver.1.01、国・地域間距離データベースを優先して利用しつつ、利用可能データ (国内) ver.1.03で補充した。		

6. 検証情報				
6.1	検証方式	商品別検証方式	6.2 システム認証番号	-
6.3	検証番号	CV-DH01-13001	6.4 検証有効期限	2016年5月23日

7	備考	(事務局使用欄)
---	----	----------

(※) 二次データについては、CFPウェブサイト下記ページ参照のこと。
<http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/data.html>



カーボンフットプリント製品例



サムスン電子
Galaxy Note II



日立製作所
ストレージ



生活協同組合連合会 ラップ



リスパック クリーンカップガード



でん六 ポリッピーしお味



井村屋 BOXあずきバー



日本ハム 森の薫りシリーズ

エコライフとは





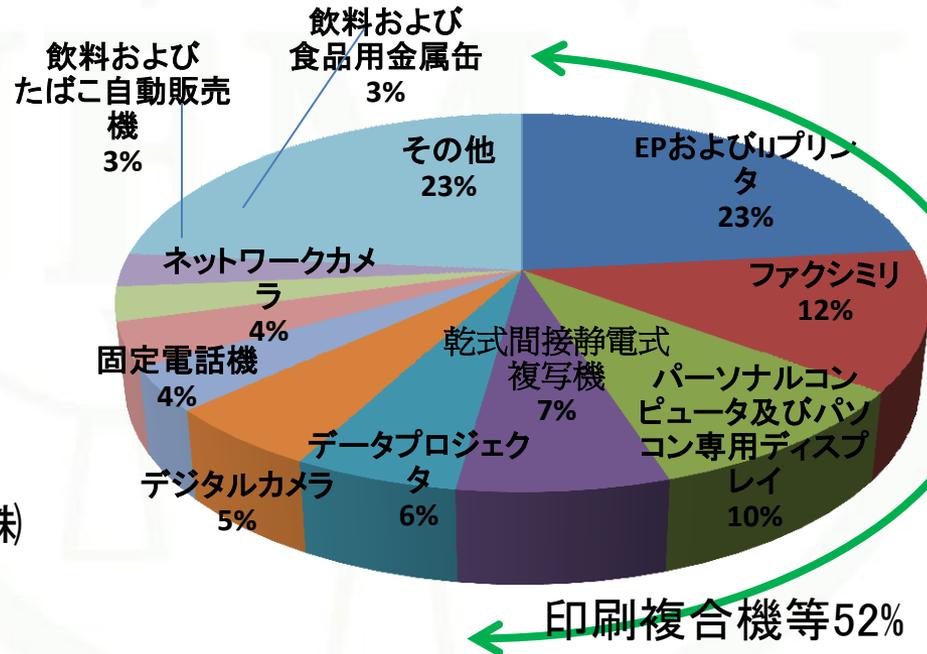
エコリーフ登録公開状況

2013年10月10日現在

◇PCR制定公開数	81件 (現在公開数77件)
◇ラベル公開累計数	1,227件
	(内海外輸出製品59件, 現在公開数 460件)
◇公開企業累計数	73社

<主な参加企業>

- 印刷複合機関係 (株)PFU、(株)リコー
キヤノン(株)、コニカミノルタ(株)
セイコーエプソン(株)、ブラザー工業(株)
京セラドキュメントソリューションズ(株)
富士ゼロックス(株)、理想科学工業(株)
- 電機・電子分野 (株)東芝
NECビッグロブ(株)、富士電機(株)
パナソニックシステムネットワークス(株)
愛知時計電機(株)、三菱電機(株)、富士通(株)
矢崎エナジーシステム(株) など
- 食品分野 日本ハム
- 衣料品分野 チクマ





エコリーフでの表示内容例(パソコン)

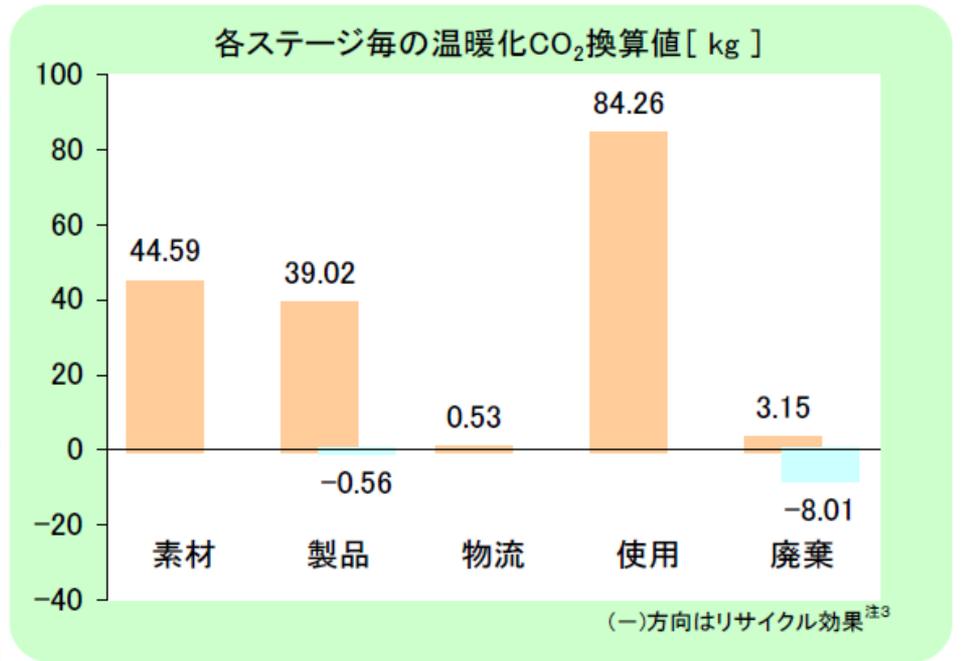
Endeavor NJ2100

- CPU : インテル® Core™ 2 Duo プロセッサ
T8300 2.4GHz
- メモリ : 3.0 GB
- HDD : 250 GB
- ディスプレイ : 15.4型TFT WXGA+ 液晶
- 内蔵ドライブ : スリムスーパーマルチドライブ
(DVD±R 2層書込)
- ネットワーク機能 : 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T
- 無線LAN : IEEE802.11b/g 対応



	全ステージ合計	
温暖化負荷(CO ₂ 換算)	171.5 kg	(163.0 kg)
酸性化負荷(SO ₂ 換算)	0.265 kg	(0.236 kg)
エネルギー消費量	3,437 MJ	(3,259 MJ)

※()内はリサイクル効果^{注3}を含んだ環境負荷を示します。



・調査範囲として本体、ACアダプター、マニュアル類、アプリケーションソフト、梱包材が含まれています。



エコリーフ製品例

自動販売機 富士電機 (株)



包装材 富士特殊紙業(株)



ユニフォーム 株式会社チクマ

マネキン 平和マネキン(株)

TE形コントロールセンタカタログ 東芝産業機器製造(株)

他制度との連携



グリーン購入プレミアム基準



- 「誰もが達成して当たり前前の基準」ではなく「胸を張れる基準」の対象になっていることをアピール。
- 調達条件(加点項目など)に盛り込んでもらうことで、他社との差別化が図れる

グリーン購入法 「プレミアム基準策定ガイドライン」より抜粋 OA機器の例

OA機器(コピー機等、プリンタ等、電子計算機、プロジェクタ、カートリッジ等)の設定例

プレミアム基準の考え方	<p>(1) 現行の判断の基準の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費効率の引き上げ(消費電力量の場合は削減) → 目標年度が数年度先となっているトップランナー基準、等 有害物質の使用制限、長期使用等 再使用・マテリアルリサイクル率、再資源化率の引き上げ(カートリッジ等) <p>(2) 新たな評価軸の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> 配慮事項の判断の基準への格上げ(数値等明確性の確保) 有害物質の使用制限、環境配慮設計、長期使用等 <p>(3) 自己適合宣言の強化又は第三者等による物品等の認証・確認</p> <ul style="list-style-type: none"> エコマークにより認定又は同等以上の物品等 <p>(4) 他の環境施策との連携による相乗効果</p> <ul style="list-style-type: none"> エコリーフにより認証又は同等以上の物品等 カーボンフットプリントコミュニケーションプログラムにより検証又は同等以上の物品等
-------------	---

- 環境配慮に先駆的に取り組む組織等により市場の牽引・イノベーションの促進を図るためのリーダーシップ的な基準
- 物品等の製造・提供事業者に対しても、環境配慮の先進性を訴求・差別化するための開発目標となりうる基準



将来(2,3年ないし5年程度を目途)の特定調達品目に係る判断の基準等として位置づけを行うことが見込まれる基準

- (1) 現行の判断の基準の強化(数値的強化等)
 - 他の制度や環境ラベル等の基準において、より高い基準が設定されている場合は当該基準を準用すること(具体的にはエコマーク認定商品のうち上位互換のもの、多段階評価基準の上位等が該当)
 - 重視すべきライフサイクル段階・環境負荷項目について、現行の判断の基準と比較して基準値が強化されていること
- (2) 新たな評価軸の追加
 - 現行の判断の基準に新たな評価軸(ライフサイクル段階、環境負荷項目)が追加されること
 - 配慮事項を判断の基準へ格上げすること
- (3) 自己適合宣言の強化又は第三者等による物品等の認証・確認
 - 適切かつ徹底的な情報開示による自己適合宣言が行われていること
 - 基準への適合について第三者等が行っている認証制度等により確認されていること
- (4) 他の環境施策との連携による相乗効果
 - 物品等のカーボン・オフセットやカーボンフットプリントの認証等が行われていること

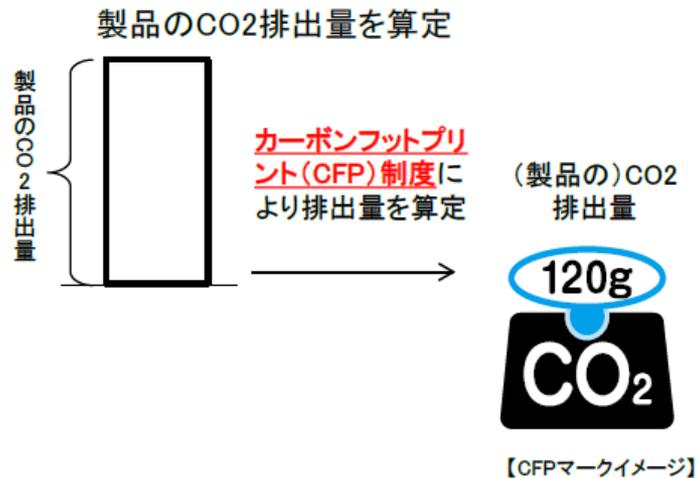
<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/archive/pre/guideline.pdf>

「CFPを活用したカーボンオフセット」制度試行事業概要

2013年7月23日 エコリーフ/CFP合同情報交換会 経済産業省資料より抜粋

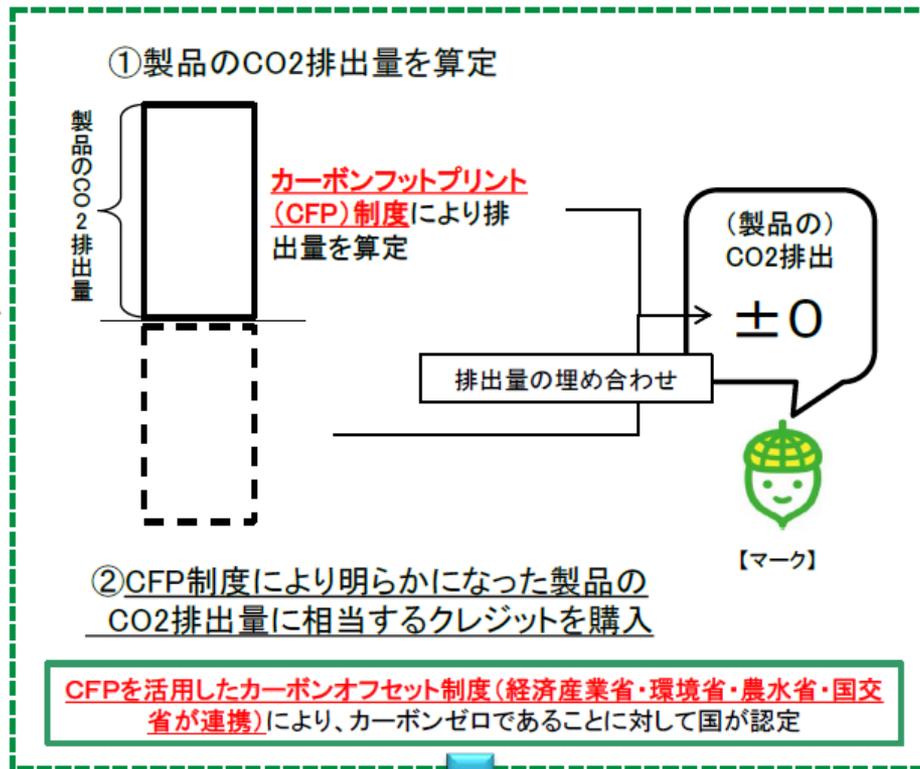
CFPを活用したカーボン・オフセット制度について

【カーボンフットプリント】



CFP制度を用い、製品のCO₂排出量が見える化する。企業は消費者に対して環境配慮の取組をPR。

【CFPを活用したカーボンオフセット】



カーボンオフセット製品であることを国が認定し、それを活用することで、消費者に対して環境貢献をより強くPRできる。

「見える化」制度連携活性化事業費補助金について

(平成25年度経済産業省補助事業)

製品サービスを通じたエコの取組みを見える化、深める3ステップ

【CFP】CO₂排出総量を算定する



CFPマーク



企業等がカーボンフットプリント(以下「CFP」という。)を用いて「見える化」された自らの製品のライフサイクルでの温室効果ガス排出量を認識し、主体的に排出量の削減努力を行う

【オフセット】排出したCO₂をゼロにする



どんぐりマーク



自らの製品のライフサイクルでの温室効果ガス排出量にて削減が困難な排出量について、クレジットを購入し、その排出量の全部を埋め合わせることをいいます。この制度の専用のラベル(どんぐりマーク)を用いることで、企業等は、消費者に対し自社の環境配慮の取組をより分かりやすくアピールできます。また消費者にとっては、差異化された環境配慮製品が選びやすくなるとともに、温暖化対策を自分ごととして捉えることができます。

【どんぐりポイント】買って集めて支援する



どんぐりポイントラベル
(新設)

「製品を購入すると売上の一部が環境保護活動に活用される」ことや「ラベルを集めると、地域社会に貢献できる」といった、より販売推進につながる制度です。

ポイント協賛事業者、収集コミュニティ大募集

本事業では、CFPを活用したカーボン・オフセット製品(以下「対象製品」という。)の流通促進を行うため、対象製品のマーク集票を通して消費者の購買行動に繋がるスキームの運営を行う事業者に対し補助を行います。このように対象製品の普及促進やクレジットの需要を喚起することで、自律的な低炭素製品の普及拡大や関係事業者の省エネ・低炭素化等が実施されるスキームの構築を目指します。

CFPオフセットポイント推進委員会について

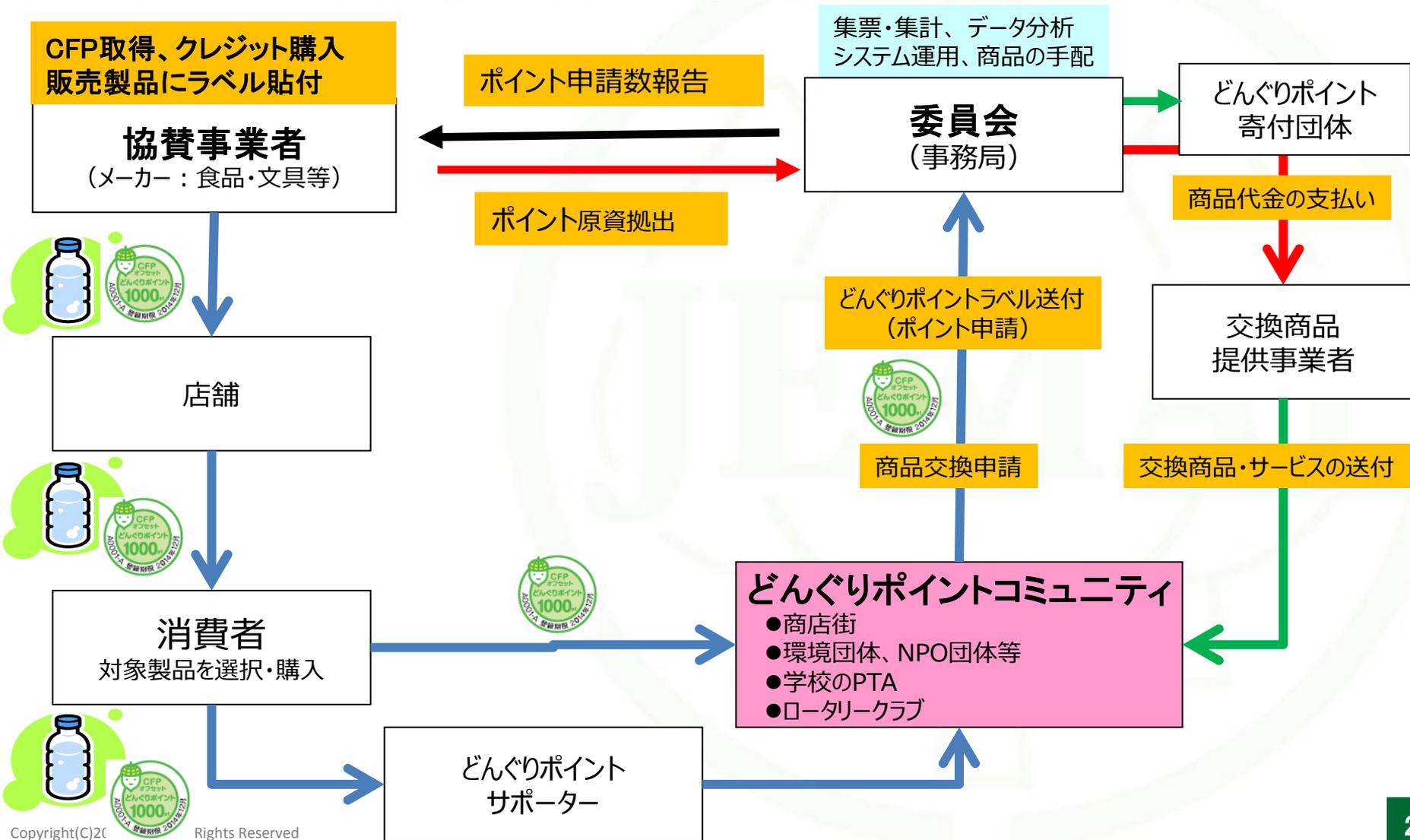
今年度は、「見える化」を促進するために、「見える化」制度連携活性化事業費補助金が公募され、(株)インテージリサーチ、一般社団法人産業環境管理協会、(株)アサツーディ・ケイ、(株)文化放送開発センター4社によるコンソーシアムの提案が採択されました。本事業はこの4社によって運営されます。

事務局は、以下のような企業と団体で構成されています。



どんぐりポイント事業の概要

協賛事業者が発行したポイントを「どんぐりポイントコミュニティ」が収集し事務局に送付することで、環境に配慮した交換商品や環境活動への寄付に使えます。



補助金による費用面のメリット(どんぐりポイント事業にかかる費用)

◆CFP取得にかかる費用

CFPの登録・公開申請費用は負担していただきます。

(製品の売り上げ規模に応じて年間10,500円～1,050,000円)

但し、PCRの策定・認定やCFPの算出・検証にかかる費用は、補助事業期間中は無料です。

(通常100万円～200万円かかる費用が無料になります。)

◆クレジットの購入にかかる費用

CO2クレジットの購入にかかる費用は負担していただきます。(トンあたり1,000円等)

但し、CO2クレジットの購入手続きなどにかかる費用は、無料です。

(経済産業省委託事業「J-クレジット等の大口向けマッチングスキーム構築・運営等事業」及び「J-クレジット等の地産地消における活用推進事業」を活用した場合)

◆ポイント原資とシステム利用料

コミュニティが収集したポイントの費用と、それと同額のシステム利用料が負担となります。

但し、ポイント原資は必要ですが、収集されたポイント費用については最大で2/3の補助が受けられます。

◆その他の補助

ポイントのシール代などが補助金により無料となります。

*なお、貴社の製品が全体でどのくらいの費用がかかり、どのくらいの節約になるかにつきましては、別途、個別に算出させていただきます。

広告宣伝のメリット(今年度の広告・広報スケジュール)

今年度は、ラジオ番組や読売新聞などで、自社の商品が紹介されます。
約500万円程度(試算値)の広告費が節約になります。

【2013年度】

発表・イベント

11月

経済産業省・コンソーシアム共同記者会見
■高校生向けエコ情報誌配布(11月～)

12月
～
2月

■エコプロダクツ2013出展(東京・12月)
■エコ・エシカル出展(札幌・2月)
■カーボンオフセットEXPO出展(東京・2月)

3月

企業向け成果発表会

■小学校向けパンフ配布
■「東京スカイツリー ソラマチ広場」への出展
※高校生向けPRブース設置

広告

■日経エコロジー1月号
■YOMIURI ONLINE
■リビング新聞(重点地域)
■日本教育新聞

■日経エコロジー4月号 →
■読売新聞 全15段
■YOMIURI ONLINE

ラジオ放送

■ラジオでの告知番組
(文化放送)
11月～12月 10分枠/週

■ラジオでの告知番組
(文化放送など3地域)
1月～3月 10分枠/週

読売新聞/日経エコロジー(掲出広告イメージ)

協賛企業 4つの特典(2013年度)

- ①ラジオ番組での企業名・製品名の紹介
(文化放送など3地域)
- ②読売新聞/日経エコロジーの純広枠での
企業名・製品掲出
- ③日本教育新聞の純広枠での企業名記載
- ④YOMIURI ONLINEのキャンペーンサイトでの
企業名・製品掲出

経済産業省〇〇〇補助事業

CFPオフセット
どんぐりポイント
1000pt
2001 登録期限 2014年12月

どんどん広がります
どんぐりポイントの輪

協賛商品、ポイント収集コミュニティ大募集!

CFPオフセットポイント推進委員会事務局 東京都中央区築地1-13-1 TEL 03-3547-2111 <http://www.asanyou.jp/>

←どんぐりポイント協賛社名・製品名・製品写真が掲載されます。

他の制度への対応



○米国EPEAT (Electronic Products Environmental Assessment Tools) ゴールド認定を狙うためのポイントの一つとして利用。

EPEATとは

電子製品の環境パフォーマンスツール。米国の公共調達要件となっている。必須項目すべてに対応するとブロンズの認証が得られる。任意項目の適合数によってシルバー、ゴールドの認証となり、第三者認証によるLCAの実施が任意項目の一つに挙げられている。

【認証レベル(金・銀・銅)】

		
必須項目 全て適合	必須項目全て＋ 任意項目50%適合	必須項目全て＋ 任意項目75%適合

○欧州 環境フットプリント対応への準備として、データ整備を行う。

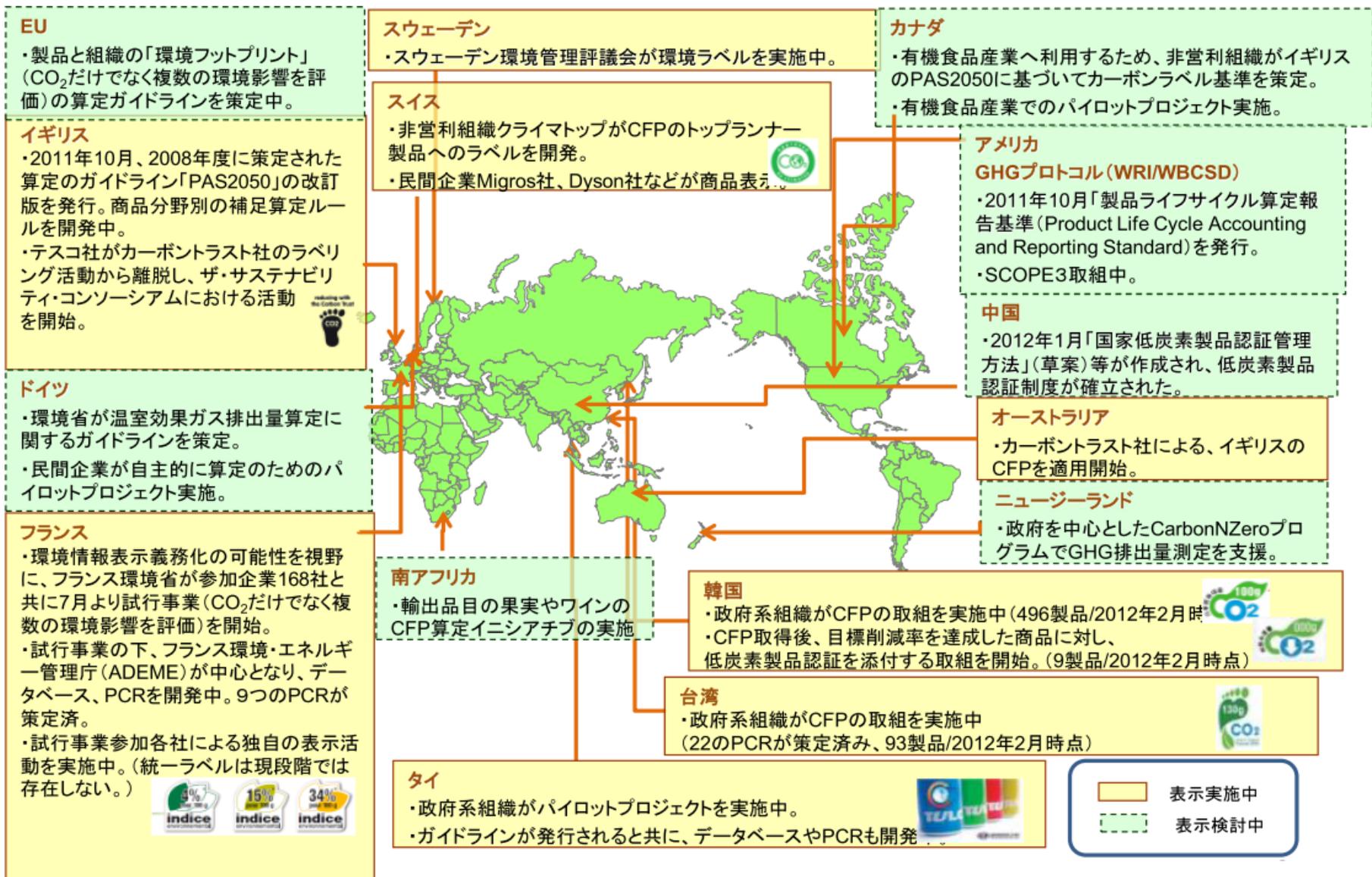
○日本 容器包装リサイクル法の

「プラスチック製容器包装再商品化製品の高度な利用」の評価において「加点評価」(高度な利用重量が10%増)を受けられる。

世界及び周辺動向



世界各国の動き



欧州環境フットプリント スケジュール

2013年5月17日時点

- 2013年4月9日 「環境配慮製品の単一市場構築(SMGP)」の公式採択
- 2013年5月29日 欧州パイロット事業の設立
- 2013年7月26日 第1期パイロット事業申し込み締切り(食品・飲料以外)
- 2013年10月/11月 パイロット事業の開始
- 2014年はじめ: 第2期パイロット事業の開始(食品・飲料含む)
- 2014年4-6月 検証プロセスのテスト開始
- 2015年4月 コミュニケーション方法のテスト開始
- 2016年10月末 パイロット事業の終了
- ~ 結果の分析および将来の政策活用に関する決定(必要に応じ)

*SMGP: Single Market for Green Products

Galatola M (2013) Building the Single Market for Green Products (SMGP)

環境フットプリント 「分野別ルール(PEFCR)」開発時の要求事項

- PEFCRは、既存の国際的なPCRガイダンス文章との整合性を取ることが望ましい

既存のPCRガイダンス文章とは？

→国際PCRガイダンス作成イニシアティブを指しているのか？



Product Category Rule
Guidance Development Initiative
Collaborative Work

米国関係者が中心となり、PCR作成ガイダンスを構築。44団体から55人が参加。(日本からはJEMAIから3名がレビュアーとして参加)

ドラフト時においてはPCRを英語にすることなどが定められていたが、意見提出などを経て、最終版では表現が弱められた。

最終版では、CFPプログラム・エコリーフ(JEMAI)との大きな違いはない。

ただし、PCR原案の公開コンサルテーション期間が30日、複数利害関係者参画によるPCR作成など、若干厳しい部分がある。

日本では

ライフサイクルシンキングが
政策や企業の行動の中に少しずつ導入されてきている。

グリーン購入法

国等による環境物品等の調達に関する法律

基本方針で「環境物品等の調達に際しては、できる限りライフサイクル全体にわたって多様な環境負荷の低減を考慮することが望ましい」とされている。今年度新しく作られた「プレミアム基準ガイドライン」ではカーボンフットプリント、エコリーフ等の認定製品であることが記載された。

国土交通省

省エネ性能の向上による住宅・建築物のゼロエネルギー化支援、LCCM(ライフサイクルカーボンマイナス)住宅の評価、表示の促進を行い、2030年までの工程表の中で、ライフサイクルCO2の評価・表示の検討を行うとしている。

一般社団法人 日本経済団体連合会

経団連・低炭素社会実行計画：電機電子業界では、製品によるCO2排出削減貢献量を定量的に把握、評価、公表することとなった。

川崎市 KAWASAKI CITY

川崎メカニズム：市内事業者の環境技術が温室効果ガスの削減に貢献している量を「見える化」し、企業が市場で適切に評価される仕組みづくりに繋げる。

関連情報



LCAソフトウェア (MiLCA) の概要

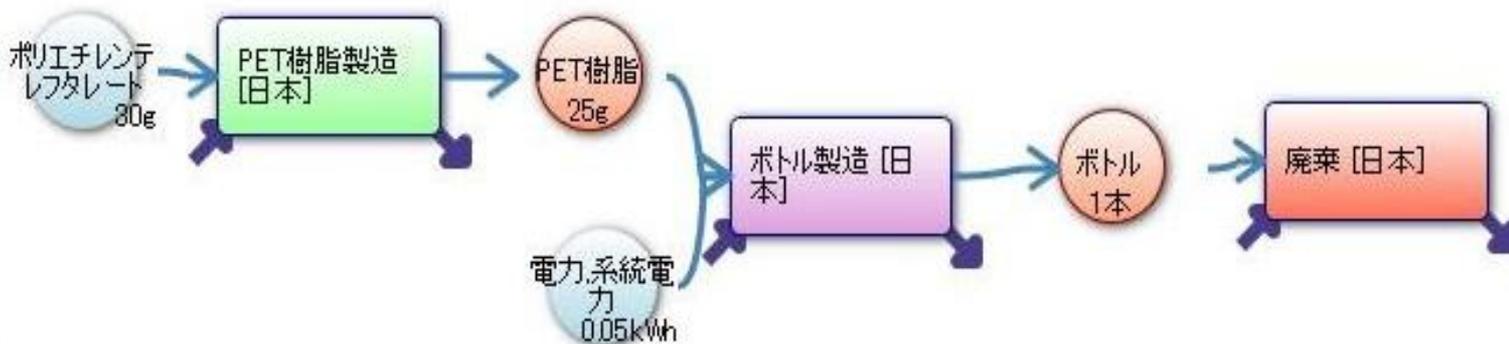
<豊富な国内LCAデータベース>



<最新の環境影響評価手法の搭載>



<直観的な操作によるケーススタディの実施>





CFP WEBサイトについて

The screenshot shows the CFP Japan website interface. At the top, there are navigation tabs: HOME, CFPとは, CFPプログラムについて, CFPプログラムへの参加, CFP対象製品, and CFP関連規程. The 'CFP関連規程' tab is highlighted with a red box. Below the tabs is a main banner area with a large 'CO2' logo and a 'Carbon Footprint Communication Program' title. To the right of the banner is a sidebar menu with items like 'マーク付与までの流れ', 'CFP-PCR認定について', '認定CFP-PCR一覧', 'CFP検証について', 'システム認証', 'CFP算定用二次データ', and 'CFP宣言認定製品一覧'. The '認定CFP-PCR一覧' and 'CFP宣言認定製品一覧' items are highlighted with red boxes. Below the banner are two main content boxes: 'CFPプログラム概要と参加方法' and '製品をお探しの方はこちら CFP検証番号検索'. At the bottom, there are social media links for Facebook and Twitter, and a 'What's new' section with a list of recent updates. The 'What's new' section is also highlighted with a red box.

【URL】
<http://www.cfp-japan.jp/>

『CFP関連規定』
 現在のルール(要求事項等)はこちらから

『認定PCR一覧』
 PCR一覧はこちらから

『CFP宣言認定製品一覧』
 公開済みの製品一覧はこちらから

『What's new』
 最新トピックスはこちらから

Thank you for your attention.

